

平成 26 年度

**修学旅行の実施状況並びに「学びの集大成を図る
修学旅行」の取り組みについてのアンケート**

< 関修委研究委員会報告 >

* 関修委の発足と活動内容

関東地区公立中学校修学旅行委員会 研究委員会
(事務局：公益財団法人全国修学旅行研究協会)

平成26年度

**修学旅行の実施状況並びに「学びの集大成を図る修学旅行」
の取り組みについて調査集計結果の分析と考察
～感性をはぐくむ修学旅行～**

I 調査研究のねらい

特別活動の一層の充実と目標を達成するために「望ましい集団活動を通して」「心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度」が求められている。

生徒の実態は、知識・技能の習得に比べ「知識・技能を実生活の場に活用する力や表現する力など課題がある」との指摘があり、今後とも、修学旅行は課題克服に向けて重要な役割を担うものと考えられる。

これまで関東地区公立中学校修学旅行委員会は、これらの様々な課題を受けて各学校における修学旅行の取り組みについて、実態調査を継続的に行ってきた。

昨年度は「学びの集大成を図る修学旅行」の調査研究を行った。

また、「修学旅行を企画する上で学校として重要視したものは何か」「事前・事後の学習の実態」について調査した。

事前・事後の学習については総合学習・特別活動の時間を利用して行っている学校が多い反面、教科と関連づけて学習することや、事前・事後の学習時間の確保については減少の一途をたどっている。

今年度は、昨年度に引き続き、『感性をはぐくむ修学旅行』をテーマとして、調査・研究を進めることとした。

調査にあたっては「学びの集大成を図る修学旅行」をサブテーマに、

①生徒が修学旅行へ主体的に取り組むための方法について

②修学旅行中、現物を前にして最も心が動いたもの、感動を受けたものについて調査研究を進めることにした。

また、近年の食物アレルギーの実態とともに各学校における対策などを調査する。

現在の教育課程では、学力重視、教科指導時数の確保が重要視され、「望ましい集団活動」を実践する上で大切な特別活動の時間の確保が難しくなっている。

これらの調査が、今後修学旅行を企画していく上で、各学校において有効な資料となることを期待する。

II 調査状況(平成26年度修学旅行の実施状況調査)

- 1 調査対象 関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)の公立中学校
- 2 調査の時期 平成26年7月
- 3 調査内容
 - (1)平成26年度実施(調査以降の予定を含む)の修学旅行の概況
時期・日数・旅行方面・宿泊地・旅行費用・不参加生徒数
 - (2)修学旅行でのアレルギー対応について
 - (3)修学旅行中の安全対策について
 - (4)学びの集大成を図る修学旅行の取り組みについて

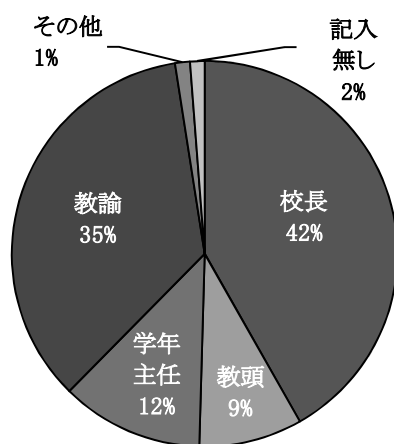
4 回答状況 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
調査校数	229	160	168	421	384	1,362
回答数	149	160	113	417	384	1,223
回答率	65.1%	100.0%	67.3%	99.0%	100.0%	89.8%

回答者 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
校長	15	27	47	262	160	511	41.8%
教頭	32	2	22	20	30	106	8.7%
学年主任	26	46	9	28	37	146	11.9%
教諭	69	80	33	103	145	430	35.2%
その他	5	2	1	0	7	15	1.2%
記入無し	2	3	1	4	5	15	1.2%

※割合は全体数1,223校に対する値



III 実施概況

1 実施時期 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
4月	4	31				35	2.9%
5月	67	101	66	54	220	508	41.5%
6月	66	22	43	188	151	470	38.4%
7月				80		80	6.5%
8月			1			1	0.1%
9月	11	6	1	17	1	36	2.9%
10月			1		1	2	0.2%
11月						0	0.0%
12月				17		17	1.4%
1月				12	1	13	1.1%
2月				43	2	45	3.7%
3月				1		1	0.1%
記入無し	1		1	5	8	15	1.2%

※割合は全体数1,223校に対する値

2 実施日数 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
2日間						0	0.0%
3日間	149	160	111	413	379	1,212	99.1%
4日間					2	2	0.2%
8日間			1			1	0.1%
記入無し			1	4	3	8	0.7%

※割合は全体数1,223校に対する値

・実施時期については5～6月が最も多く、79.9%が実施している。

・関修委・連合体の集約列車を利用せず4月実施の学校が35校ある。栃木県に多く見られる。

・9月実施校は年々増加の傾向がある。24年～26年にかけて年々5校ぐらいつつ増加している。

(24年) (25年) (26年)
25校 ⇒ 31校 ⇒ 36校

・2月実施校は昨年と同じ45校となっている。

・実施日数は3日間が圧倒的に多く、99.1%となっている。

・群馬県の8日間は夏季休業中の海外ホームステイ実施校。

3 実施方面

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
東北					11	11	0.9%
会津・日光					21	21	1.7%
信州					71	71	5.8%
北陸					4	4	0.3%
関西	146	150	102	411	269	1,078	88.1%
広島・関西	3	10	8	2	4	27	2.2%
海外			1			1	0.1%
その他			2		1	3	0.2%
記入無し				4	3	7	0.6%

※割合は全体数1,223校に対する値
 ※その他は東京、名古屋・京都

・関西方面(広島含む)実施校が90.3%となっている。

・広島・関西方面が25年度から急増(24年)(25年)(26年)
 12校 ⇒ 28校 ⇒ 27校となった。
 広島便設定の影響が考えられる。

・東北、会津・日光、信州方面

22年 23年 24年 26年
 東北) 21校 6校 9校 11校
 会津・日光) 43校 2校 4校 21校
 信州) 60校 107校 97校 71校
 *東日本大震災後、急減した東北方面が年々増加している。

『東北方面震災前の50%まで回復』

4 訪問地(県)(複数回答)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合1	割合2
青森県					3	3	0.2%	0.1%
岩手県					4	4	0.3%	0.2%
宮城県					3	3	0.2%	0.1%
山形県					5	5	0.4%	0.2%
福島県					18	18	1.5%	0.7%
栃木県					8	8	0.7%	0.3%
群馬県					1	1	0.1%	0.0%
東京都					2	2	0.2%	0.1%
新潟県					4	4	0.3%	0.2%
長野県					71	71	5.8%	3.0%
静岡県					1	1	0.1%	0.0%
愛知県			1		1	2	0.2%	0.1%
岐阜県					14	14	1.1%	0.6%
滋賀県		1	3		3	7	0.6%	0.3%
京都府	149	160	111	413	272	1,105	90.4%	45.9%
大阪府	9	5	3	2	23	42	3.4%	1.7%
兵庫県	3			2	3	8	0.7%	0.3%
奈良県	146	159	104	412	256	1,077	88.1%	44.8%
広島県	3	10	8	1	4	26	2.1%	1.1%
海外			1			1	0.1%	0.0%
記入無し等				3		3	0.2%	0.1%
合計(延校数)	310	335	231	833	696	2,405		100.0%

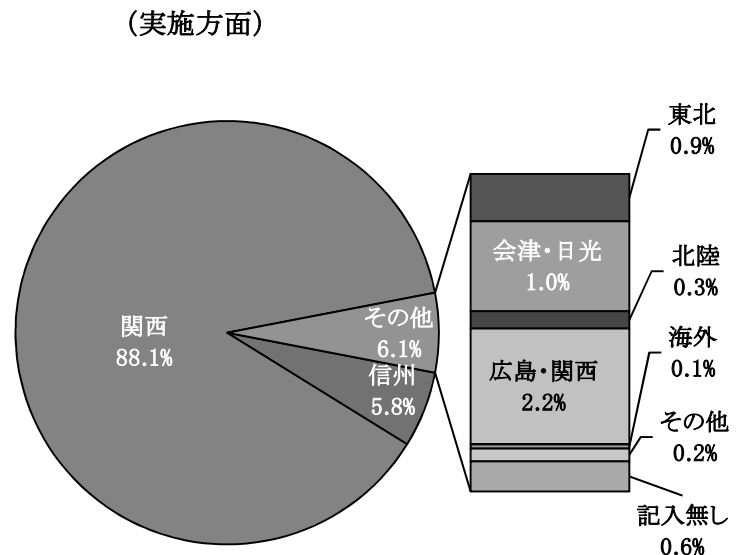
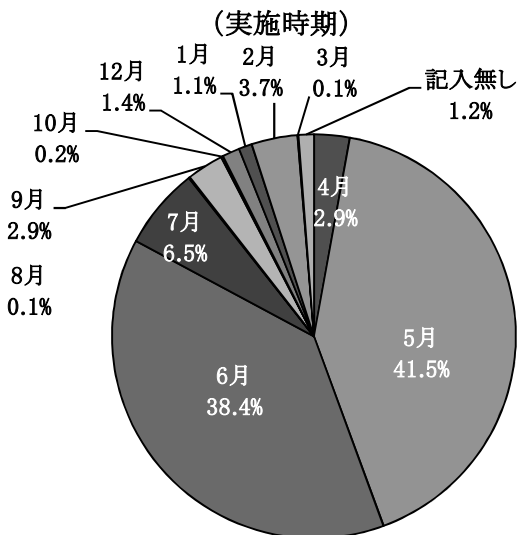
※割合1は全体数1,223校に対する値
 ※割合2は延校数2,406校に対する値

・訪問地は京都・奈良が約90%となっている。

・方面別にみると、千葉県が信州方面や東北方面等多方面へ行っている。

・長野において農家民泊や農業体験、自然スポーツ体験等実施している。

・広島方面は栃木、群馬で増加傾向が見られる。



5 県別旅行費用(生徒一人当たり平均額) 校

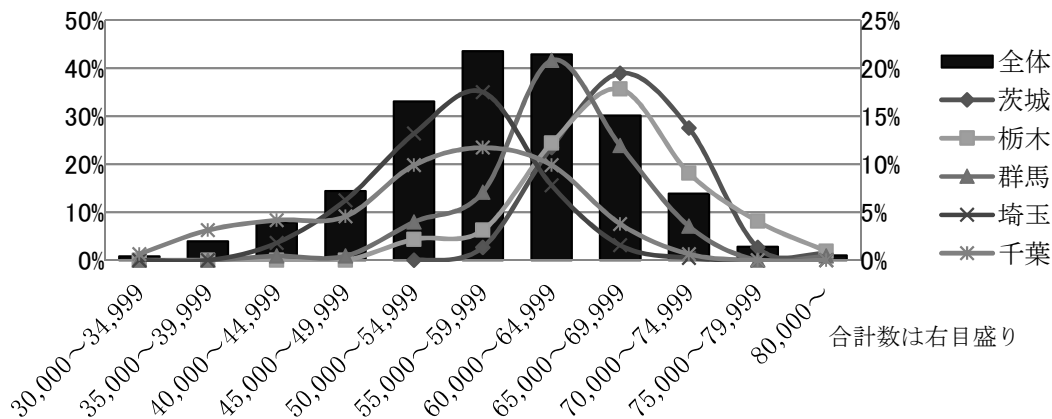
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
30,000～34,999					5	5	0.4%
35,000～39,999					24	24	2.0%
40,000～44,999			1	15	32	48	3.9%
45,000～49,999			1	52	35	88	7.2%
50,000～54,999		7	9	110	76	202	16.5%
55,000～59,999	4	10	16	146	90	266	21.7%
60,000～64,999	35	39	47	65	76	262	21.4%
65,000～69,999	58	57	27	13	29	184	15.0%
70,000～74,999	41	29	8	2	5	85	7.0%
75,000～79,999	4	13				17	1.4%
80,000～	2	3	1			6	0.5%
記入無し	5	2	3	14	12	36	2.9%
合計	149	160	113	417	384	1,223	100%

・1人当たりの平均費用は55,000～59,999円が最も多い。

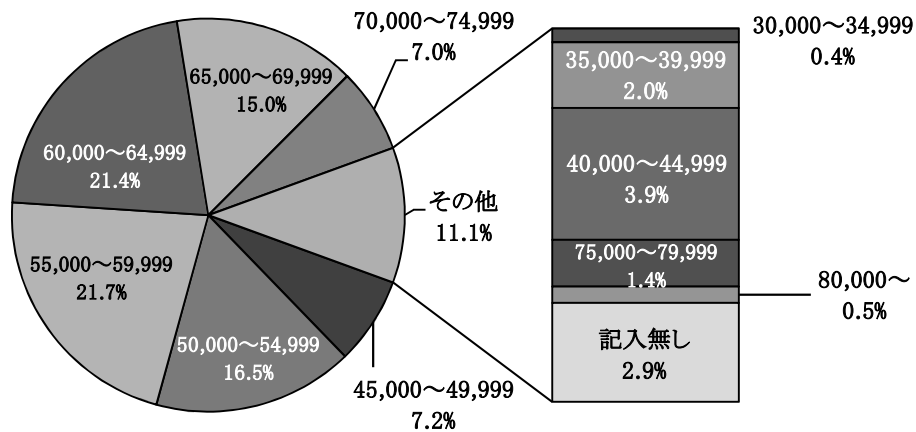
・県別に見ると、継走列車を利用する茨城・栃木・群馬は60,000～69,999円が最も多く、埼玉・千葉は50,000～59,999円が最も多い。

・千葉県は方面が多岐にわたり、また費用も広く分布する。

※割合は全体数1,223校に対する値



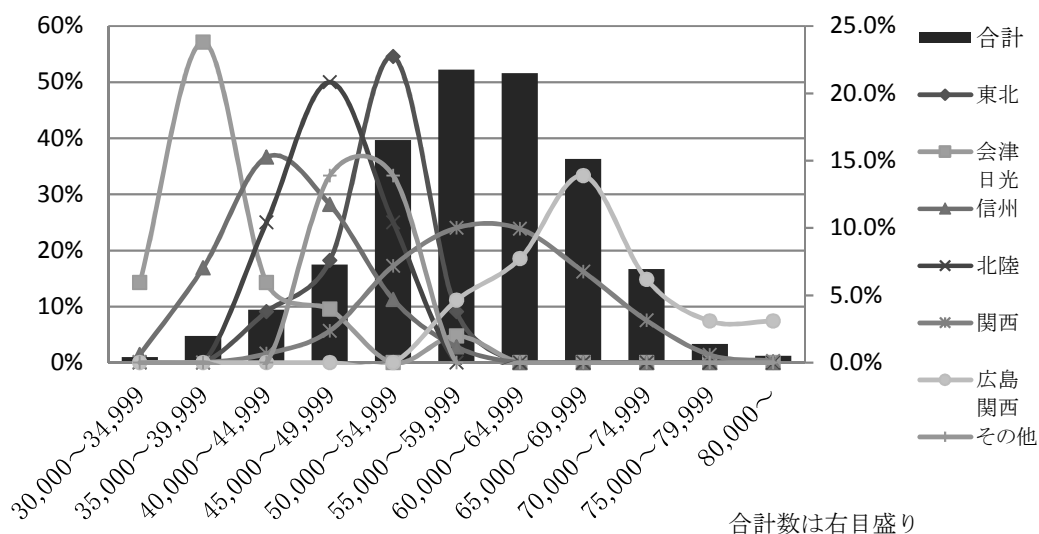
(県別旅行費用)



6 方面別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

校

	東北	会津日光	信州	北陸	関西	広島 関西	海外	その他	記入 無し	合計
30,000～34,999		3	1		1					5
35,000～39,999		12	12							24
40,000～44,999	1	3	26	1	17					48
45,000～49,999	2	2	20	2	61			1	1	89
50,000～54,999	6		8	1	186			1		202
55,000～59,999	1	1	2		259	3				266
60,000～64,999					257	5			1	263
65,000～69,999					175	9			1	185
70,000～74,999					81	4				85
75,000～79,999					15	2				17
80,000～					3	2	1			6
記入無し	1		2		23	2		1	4	33
合計	11	21	71	4	1,078	27	1	3	7	1,223



7 県別体験活動費用(生徒一人当たり平均額)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合1	割合2
0	8	20	9	51	32	120	9.8%	11.2%
1～499	1	2	2	1	3	9	0.7%	0.8%
500～999	12	20	7	43	17	99	8.1%	9.3%
1,000～1,499	11	15	17	79	48	170	13.9%	15.9%
1,500～1,999	17	22	14	73	28	154	12.6%	14.4%
2,000～2,499	26	26	7	56	61	176	14.4%	16.5%
2,500～2,999	6	9	10	17	20	62	5.1%	5.8%
3,000～3,499	20	12	13	20	28	93	7.6%	8.7%
3,500～3,999	4	4	4	2	11	25	2.0%	2.3%
4,000～4,499	11	2	4	8	14	39	3.2%	3.7%
4,500～4,999	5	5	3	10	37	60	4.9%	5.6%
5,000～5,999	1			1	3	5	0.4%	0.5%
6,000～	6	3	4	8	34	55	4.5%	5.2%
記入無し	21	20	19	48	48	156	12.8%	
合計	149	160	113	417	384	1,223	100%	

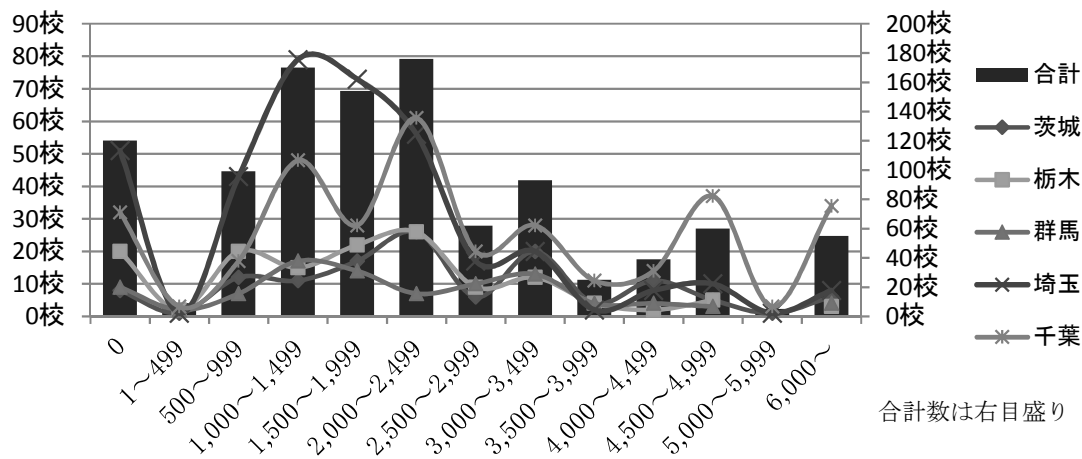
※割合1は全体数1,223校に対する値

※割合2は有効回答数1,067に対する値

・昨年度は生徒一人当たりの体験費用は500～999円の範囲が最も多かった。今年度は1,000～2,499円の範囲が多く、昨年度より増加傾向が見られる。

・1,000～2,499円の範囲に約47%の学校が含まれる。

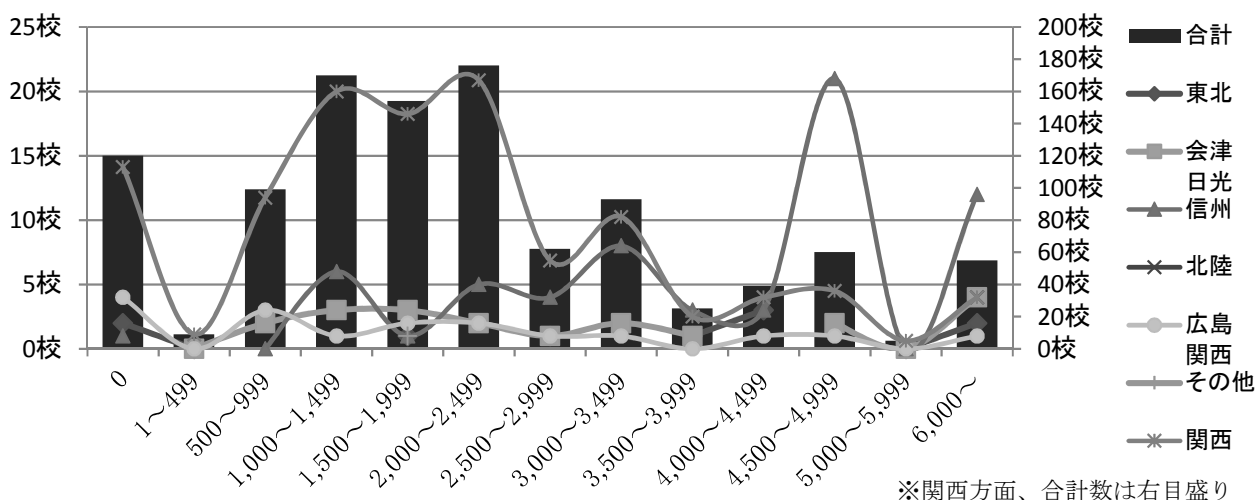
・記入なしの学校も多く見られた。農家民泊体験の場合宿泊料も含まれる。



8 方面別体験活動費用(生徒一人当たり平均額)

校

	東北	会津 日光	信州	北陸	関西	広島 関西	海外	その他	記入 無し	合計
0	2		1		113	4				120
1~499					9					9
500~999		2			94	3				99
1,000~1,499		3	6		160	1				170
1,500~1,999	1	3	1		146	2		1		154
2,000~2,499		2	5		167	2				176
2,500~2,999	1	1	4		55	1				62
3,000~3,499		2	8		82	1				93
3,500~3,999	1	1	3		20					25
4,000~4,499	3		3		32	1				39
4,500~4,999		2	21		36	1				60
5,000~5,999					5					5
6,000~	2	4	12	4	32	1				55
記入無し	1	1	7		127	10	1	2	7	156
合計	11	21	71	4	1,078	27	1	3	7	1,223



9 方面別費用平均(生徒一人当たり平均額)

円

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均	最高額	最低額
東北					50,713	50,713	55,221	42,700
会津・日光					38,651	38,651	55,007	33,000
信州					43,519	43,519	58,000	34,627
北陸					46,938	46,938	52,000	42,750
関西	67,206	66,194	61,465	54,966	57,982	59,567	81,500	31,365
広島・関西	74,000	70,577	67,135	57,081	64,525	67,702	83,000	56,000
海外			400,000			400,000	-	-
その他			53,797		48,000	50,899	53,797	48,000
平均	67,300	66,443	61,811	54,977	53,938	58,303	-	-
最高額	80,076	83,000	73,000	73,000	70,400	-	83,000	-
最低額	56,000	51,353	44,500	40,000	31,365	-	-	31,365

※小数点以下切り捨て

※海外(400,000円)は平均から除く

・関西方面は59,567円となり、昨年(59,029円)より538円の増となった。
 ・広島方面がは関西方面より8,135円の増となった。
 ・東北方面は千葉県が実施しているが、関西方面より約7,300円の減となった。

・今年度の修学旅行費用平均は**58,303円**となり、昨年度の58,303円より619円の増となった。

10 方面別体験費用平均(生徒一人当たり平均額)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均	最高額	最低額
東北					3,618	3,618	9,000	0
会津・日光					3,396	3,396	10,000	800
信州					4,431	4,431	18,500	0
北陸					10,830	10,830	20,000	7,020
関西	2,588	1,845	2,168	1,665	2,205	1,993	17,000	0
広島・関西	0	1,567	2,717	4,759	850	2,052	10,000	0
海外						-	-	-
その他					1,800	1,800	1,800	1,800
最高額	17,000	10,530	10,000	11,000	20,000	-	20,000	-

※小数点以下切り捨て

・体験費用は旅行方面により体験内容も異なるため様々である。

・関西地区における平均費用は約1,993円となり、昨年より200円の増額となった。

11 不参加生徒の有無

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
いる	109	111	71	300	304	895	73.2%
いない	34	44	40	82	72	272	22.2%
記入無し/不明	6	5	2	35	8	56	4.6%

※記入無し/不明 には平成25年7月以降実施の学校も含む

※割合は全体数1,223校に対する値

記入無し/不明

4.6%

いない

22.2%

いる

73.2%

11-1 理由別不参加の延校数と生徒数

		茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
合計	学校数	109	111	71	300	304	895
	生徒数	373	411	223	1,316	1,151	3,474
経済的理由	学校数	18	16	14	36	25	109
	生徒数	21	24	31	50	34	160
不登校	学校数	95	93	57	269	268	782
	生徒数	263	281	139	897	854	2,434
疾病	学校数	24	28	13	86	77	228
	生徒数	28	58	24	135	104	349
事故	学校数	3		2	9	4	18
	生徒数	5		2	13	8	28
その他	学校数	28	32	15	113	81	269
	生徒数	56	48	21	220	130	475

※内訳不明の学校があるため、合計数は一致しない

・不参加生徒のいる学校は895校/1,223校となり、昨年度とほぼ同数である。

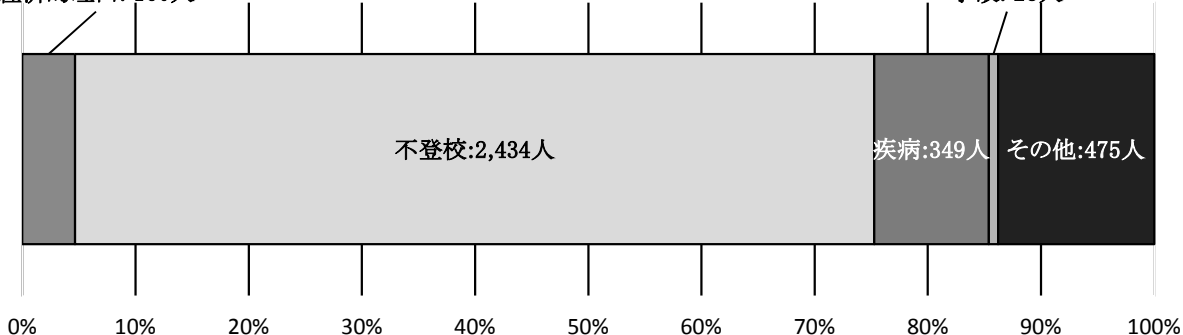
・昨年度は全校中72.5%の学校に不参加生徒がいた。今年度も約73.2%とほぼ同数の学校数である。

・不参加生徒の理由は70%が不登校によるものである。

・経済的理由による不参加は160名にのぼる。

経済的理由: 160人

事故: 28人



宿泊地

1泊目

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
青森県					3
岩手県					3
山形県					5
福島県					18
栃木県					3
群馬県					1
新潟県					4
長野県					63
岐阜県					8
滋賀県		6	2	4	9
京都府	137	144	94	389	246
大阪府					9
兵庫県	1			1	
奈良県	9	8	13	18	7
広島県	2	2	2	1	2

・関東地区の学校の旅行地は京都・奈良方面が90%と最も多く、宿泊は京都連泊が多い。

・旅行地が広範囲になっている千葉県は長野県、福島県にも宿泊している。

・連泊でない場合は1日目に奈良宿泊、2日目に京都宿泊とするのが多い。

宿泊地

2泊目

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
青森県					3
岩手県					2
山形県					5
宮城県					1
福島県					17
栃木県					4
群馬県					1
新潟県					4
長野県					67
岐阜県					4
滋賀県		6	4	4	11
京都府	147	148	101	398	254
大阪府				1	6
奈良県	1	1	3	9	2
広島県	1	5	3	1	

宿泊地

3泊目

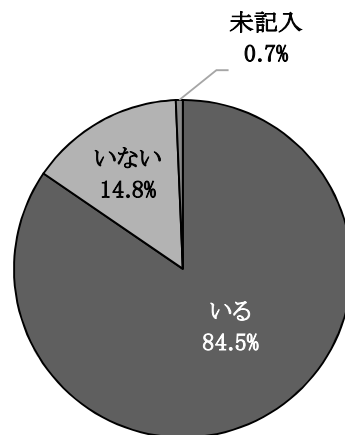
校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
栃木県					1

IV 修学旅行でのアレルギー対応について

1 アレルギーの生徒の有無

	校					合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
いる	124	131	92	357	330	1,034	84.5%
いない	25	29	20	55	52	181	14.8%
未記入	0	0	1	5	2	8	0.7%
合計	149	160	113	417	384	1,223	100%



2 アレルギーの生徒の人数

	人					合計	平均割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
合計人数	608	651	325	2,137	2,014	5,735	
平均割合	4.4%	4.3%	4.1%	4.2%	4.5%	4.3%	

・アレルギーのある生徒(学校数)

3 アレルギー生徒在籍割合別学校数

	校					合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
1%未満	8	26	11	32	26	103	8.4%
2%未満	26	24	19	68	52	189	15.5%
3%未満	16	16	15	48	54	149	12.2%
4%未満	14	22	11	43	47	137	11.2%
5%未満	14	10	7	32	31	94	7.7%
6%未満	8	13	2	23	31	77	6.3%
7%未満	6	14	7	35	26	88	7.2%
7%以上	27	26	17	56	62	188	15.4%
記入なし	30	9	24	80	55	198	16.2%
合計	149	160	113	417	384	1,223	100%

栃木(81.9%)、群馬(81.4%)
埼玉(85.6%)、千葉(85.9%)

栃木、群馬県より埼玉、千葉県のほうが若干多めになっている。茨城県は(83.2%)である。

・全学校数の約85%にアレルギーがある生徒がいる。

・アレルギーのある生徒は全生徒の4.3%(5県平均)である。

・アレルギーのある生徒数が7%以上という学校も少なくない。

4 アレルギー対策について(複数回答)

	校					合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
調査後予め連絡	112	112	84	330	304	942	77.0%
薬の携行	40	43	34	158	144	419	34.3%
保護者らとの連携	96	97	70	296	270	829	67.8%
その他	7	18	5	30	31	91	7.4%

・アレルギー対策について

1原因食物を予めホテルに連絡する
……77.0%

2担任と養護教諭、保護者の連携
……67.8%

3薬を携行させる
……34.3%

・約80%の学校がホテル側に予め連絡を取り、原因食物を除去してもらっている。

その他(詳細)

医療機関の確認を取っておく
引率者による共通理解
エビペン持参、保護者調理
エビペン持参
家庭から冷凍食を宿に送る
家庭と連携し、個々に対応
京都府「食物アレルギー事前調査票」
原材料一覧を当該生徒に示す
参加しなかった
代替食提供
生徒にも気を付けさせる

保護者と個々に連絡をとる
本人、保護者の了解のもと特にとっていない
有事の時の病院の確認
旅行者、民宿先、病院等に予め連絡
引率教員での共通理解
自己除去
事前に保護者・本人と確認
事前にホテルに料理を送った
自分で判断して除去し食べる
そば体験生徒は服叩き
そば体験中止

主治医から京都の病院に紹介状を書いてもらった
 症状の激しい1名については、保護者が同行し、食事の責任をもった
 成分表を取り寄せ、保護者に渡す
 弁当会社にアレルギー生徒用を準備してもらう
 引率者全員が、主治医に注意点やエピペンの使い方について指導をうけた
 給食担当及び担任がメニュー成分を取り寄せ、保護者と連携
 ホテルから詳細献立表を家庭に出していただき、事前に確認をとる
 当日も担任、養護教諭が食事の際に巡視、声がけをおこなう
 ホテルに連絡しておき、当日、ホテル側から2名に料理内容の説明を行ってもらった

V 修学旅行中の安全対策について

1 修学旅行中に生徒が利用したもの(複数回答) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
携帯電話	19	32	88	206	197	542	44.3%
スマートフォン	7			10	1	18	1.5%
PHS	1		7	18	44	70	5.7%
GPS	5	1	4	19	40	69	5.6%
タブレット	6	1	1			8	0.7%
携帯ラジオ						0	0.0%
その他	2	7	2	11	9	31	2.5%
利用なし	112	121	17	171	137	558	45.6%

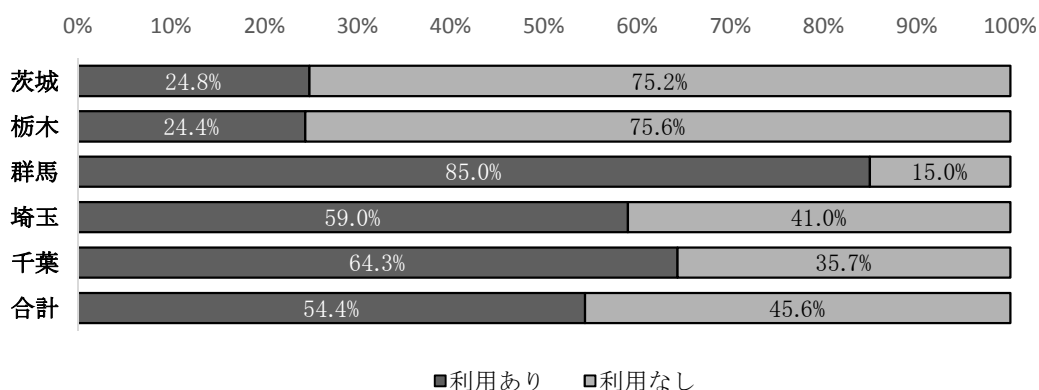
※割合は全体数1,223校に対する値

・安全対策として利用したもの
 約45%の学校が携帯電話を利用。
 約46%の学校は利用していない。
 次に、PHSやGPS利用となる。
 スマートフォンの利用やタブレットは
 1%前後と、まだまだ少数である。

・その他として
 タクシー運転手との連携というのが
 見られる。

その他(詳細)

位置確認PC
 インストラクターに依頼
 公衆電話、タクシー運転手の無線
 ジャンボタクシー
 シルバーガイド(携帯)1人/班
 タクシー運転手の携帯
 タクシー運転手を通じて連絡
 タクシー運転手とのやりとり
 本部のみ



2 事故発生時の対応策について(複数回答)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
独自の避難場所	14	3	8	44	54	123	10.1%
緊急連絡体制	132	149	94	393	356	1,124	91.9%
避難マップ配布	29	22	20	55	63	189	15.5%
その他	7	4	3	14	14	42	3.4%
未記入	5	4	6	3	12	30	2.5%

・事故発生時の対応策として
 90%以上の学校が緊急連絡体制
 が取れるようになっている。

・また、避難場所一覧(マップ)を配
 布している学校が約16%、学校独
 自に避難場所を指定している学校
 が10%ほどある。

その他(詳細)

AED設置場所しおり掲載

ガイド

各班の避難場所を確認する

学校独自緊急対応マニュアル作成

活動場所に職員がいく

業者による対応計画

京都市内の交番等の配置図を配布

緊急対応マニュアルの作成

食料・水の準備

シルバーガイドを班につける

スマホ利用

タクシー運転手の携帯

タクシー会社に依頼

タクシー無線利用

近くの人に指示を聞く

避難行動の仕方を周知

避難場所を業者に確認

避難場所の確認

保護者に緊急時の体制についてプリントを配布

ホテル等の避難経路を班長から班員に確認させた

警察・消防に連絡して避難場所を確認

ホテル指定

ほぼ集団で行動

本部待機、タクシー複数確保

宿で避難訓練実施

宿に確認し緊急避難場所を指定

宿の方から緊急避難場所を聞いて伝えた

旅館指定の避難場所を生徒に連絡

旅館で確認

旅行会社からの地図

旅行会社と連携

旅行会社の提案

旅行会社の避難計画による

宿で避難経路の確認

非常食持参

保険加入と添乗員、教職員の判断

特になし

VI 「学びの集大成を図る修学旅行」の取り組みについて

1 修学旅行のねらいで重視したものは(複数回答)

	校					合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
ア:知識の習得	128	136	96	371	299	1,030	84.2%
イ:集団宿泊訓練	44	72	30	143	114	403	33.0%
ウ:公衆道徳習得	96	96	72	267	230	761	62.2%
エ:人間関係づくり	114	105	58	281	278	836	68.4%
オ:教科学習発展	29	37	15	70	60	211	17.3%
カ:学習の深化	50	77	51	156	149	483	39.5%
キ:協力性・主体性の育成	129	131	102	370	339	1,071	87.6%
ク:自己課題追求	15	21	10	40	41	127	10.4%
ケ:その他	3	2		4	7	16	1.3%
未記入・空欄	2				2	4	0.3%
合計	610	677	434	1,702	1,519	4,942	

※割合は全体数1,223校に対する値

・班行動による協力性、主体性の育成
----- (約88%)

・見聞を広め、知識の習得
----- (約84%)

・人間関係づくり
----- (約68%)

・公衆道徳の習得
----- (約62%)

班による活動を通して、協力性や主体性を育てたい、というのが90%の学校でのねらいとなっている。

また、見聞を広め知識の習得を考える学校も多い。

その他(詳細)

学級団結を図る

感謝の心

リーダー育成

話し合い・成果まとめの学習

自力解決能力の向上

学校の取組の具体化

集団意識の向上

体験活動

旅行行事の集大成としての企画力

環境教育

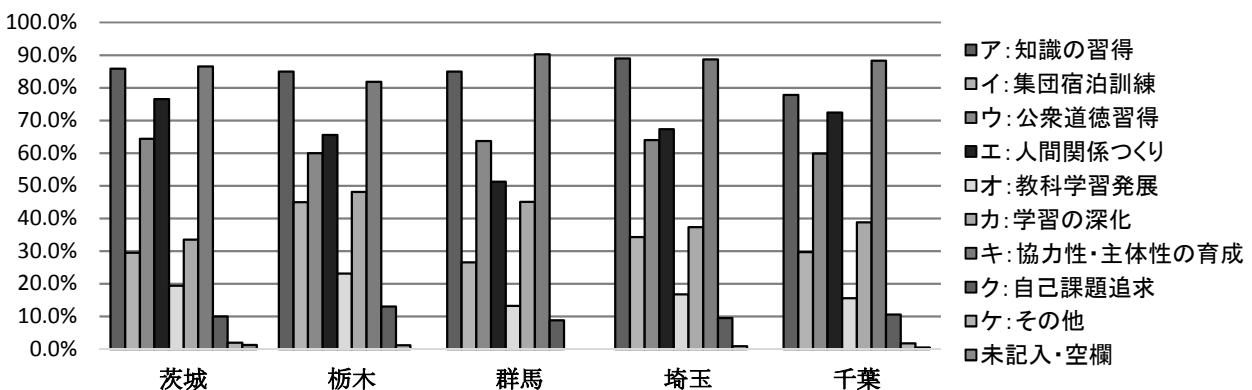
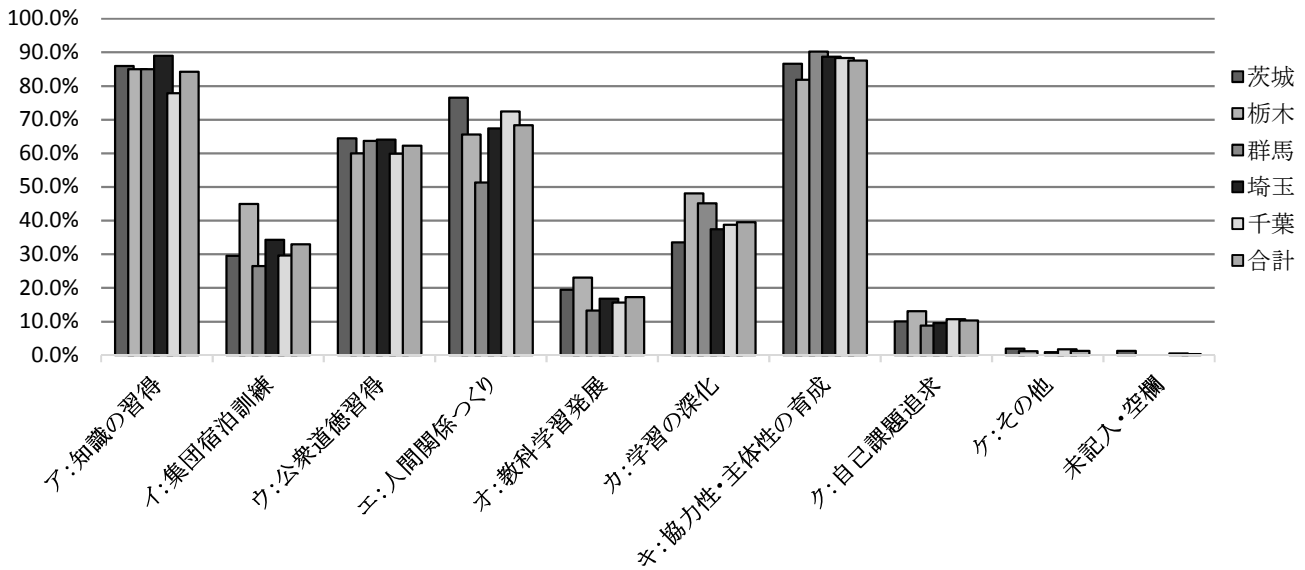
歴史・文化遺産への理解

天龍寺の法話、座禅により心の教育をする

班別課題の追求

平和学習

その地域の文化や歴史を学ぶ

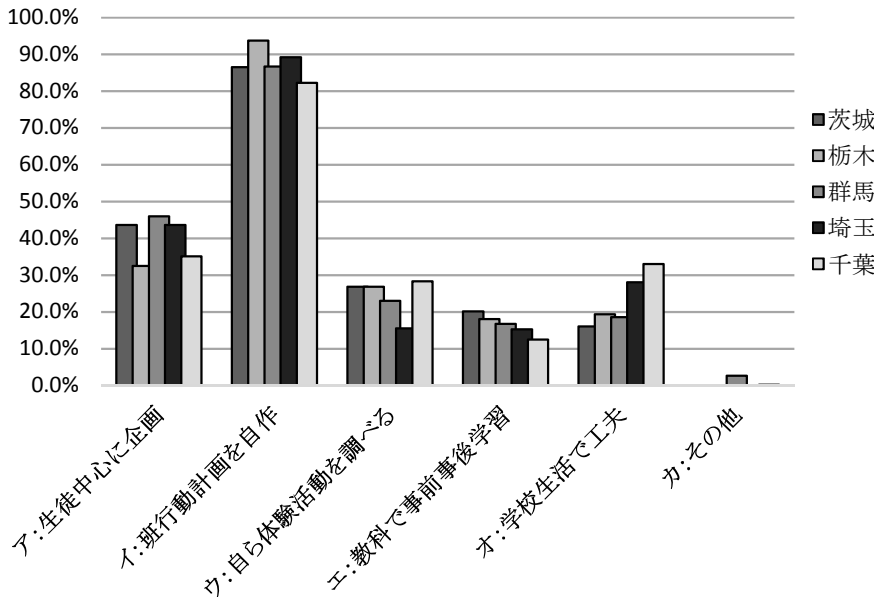


2 主体的に取り組むための方法(複数回答)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア:生徒中心に企画	65	52	52	182	135	486	39.7%
イ:班行動計画を自作	129	150	98	372	316	1,065	87.1%
ウ:自ら体験活動を調べる	40	43	26	65	109	283	23.1%
エ:教科で事前事後学習	30	29	19	64	48	190	15.5%
オ:学校生活で工夫	24	31	21	117	127	320	26.2%
カ:その他			3		1	4	0.3%
合計	288	305	219	800	736	2,348	

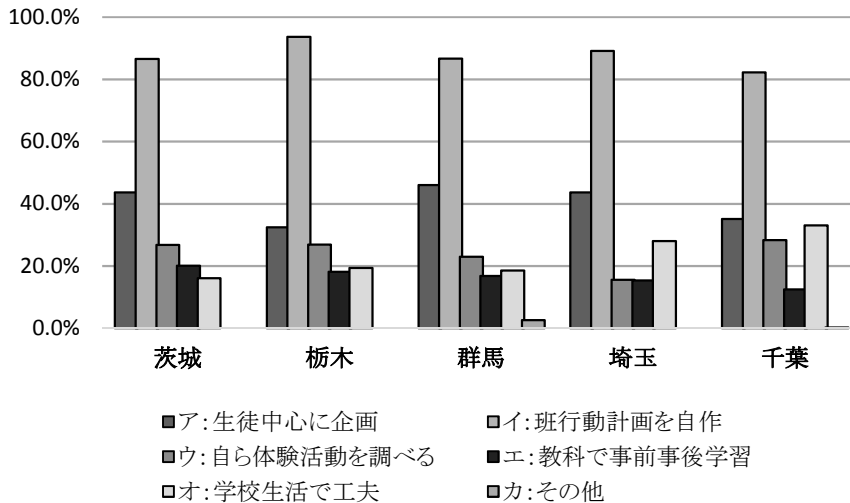
※割合は全体数1,223校に対する値



・主体的に取り組むための方法として「班別行動計画を自分たちの手で立案する」が87%で最も多い。

約40%の学校が「企画・計画の段階から生徒中心に進める」ということで学校として生徒に何としても自分たちの手で主体性を持たせ取り组ませたいという考えが伝わる。

学校生活の中でもいろいろな場面を通して主体的な取り組みをするための工夫をしている。



3 最も影響を受けたもの(複数回答)

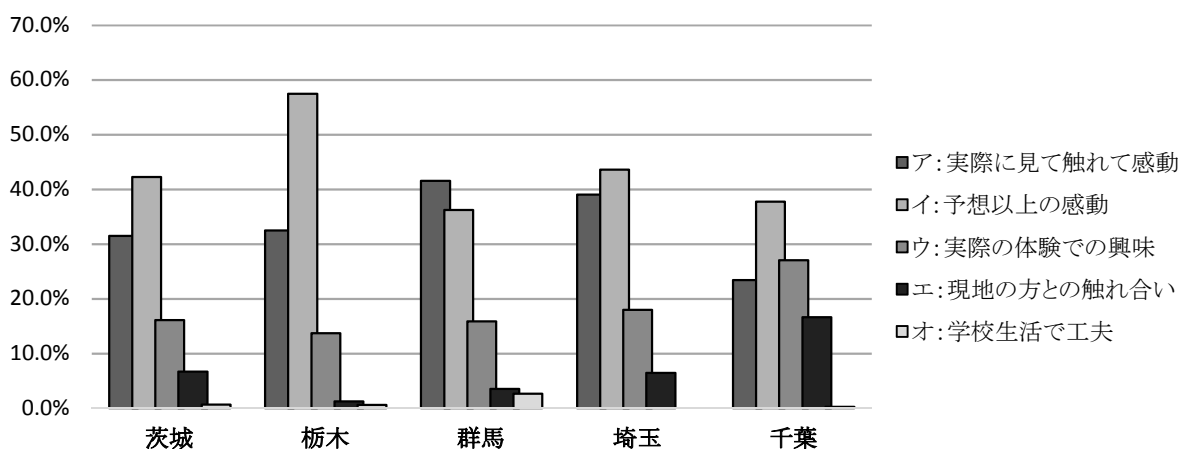
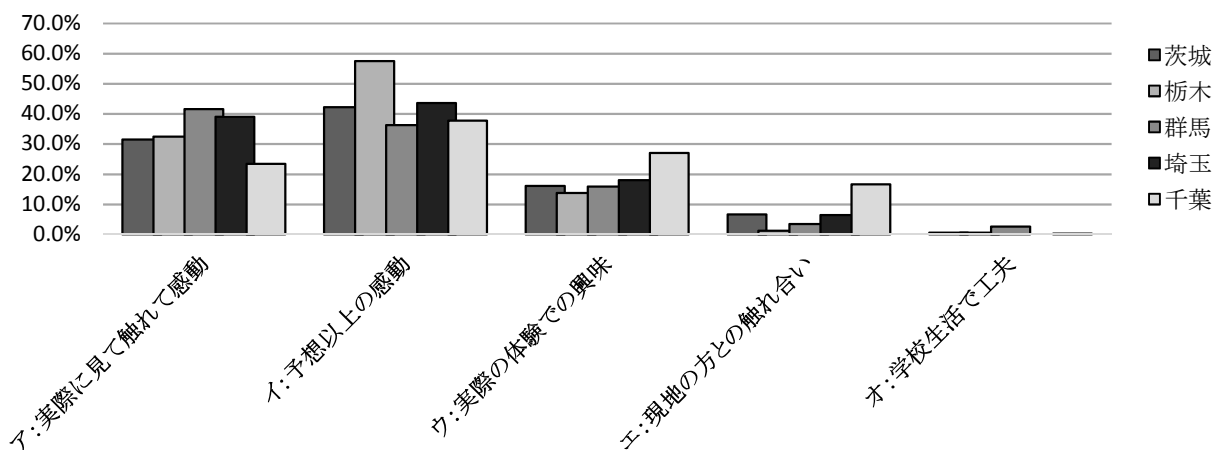
校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア:実際に見て触れて感動	47	52	47	163	90	399	32.6%
イ:予想以上の感動	63	92	41	182	145	523	42.8%
ウ:実際の体験での興味	24	22	18	75	104	243	19.9%
エ:現地の方との触れ合い	10	2	4	27	64	107	8.7%
オ:学校生活で工夫	1	1	3		1	6	0.5%
合計	145	169	113	447	404	1,278	

※割合は全体数1,223校に対する値

・最も影響を受けたものとして「自分の想像を超える大きさ、美しさに感動を得た」というのが最も多く、約43%であった。

また、学んだことを実際に見て感動した、というのも約33%と多く、感性を育む過程において大変重要なことと考えられる。実物に触れる修学旅行の意味がここからも理解



4 被災地復興支援について

(1) 修学旅行に関連して復興支援活動(募金等)を行ったか 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
支援した	8	3	14	9	14	48	3.9%
特にしていない	129	157	91	402	366	1,145	93.6%
未記入	12	0	8	6	4	30	2.5%

支援活動の具体的な内容

岩手への修学旅行
 現地でのボランティア
 オペレッタ実施
 交流校への支援
 講話を聞く
 体験・被災地
 生徒会による募金
 生徒の交流・物資の輸送
 募金
 苗木育成
 ひまわりの種のボランティア
 神戸:防災未来センターの訪問と募金
 緑のバトン運動へ参加
 福島県相馬郡新地町立尚英中学校との交流
 生徒会が全校に物資を届けるための呼びかけをして、送っている

・被災地への復興支援活動については支援しているという学校が、昨年の39校から今年は48校と約10校増えている。

・支援の内容については昨年は募金、義援金というものが多かったが、他にも復興コンサートを開催したり、応援Tシャツを作成し義援金を送ったり、宮沢賢治の詩を群唱、修学旅行で発表したり、様々な活動が見られた。

・今年は現地に行ったり、学校間で交流したり、講話を聞いたりというのがあった。

・復興はまだまだ時間も要するが、風化してしまうことのないよう応援する気持ちが大切である。

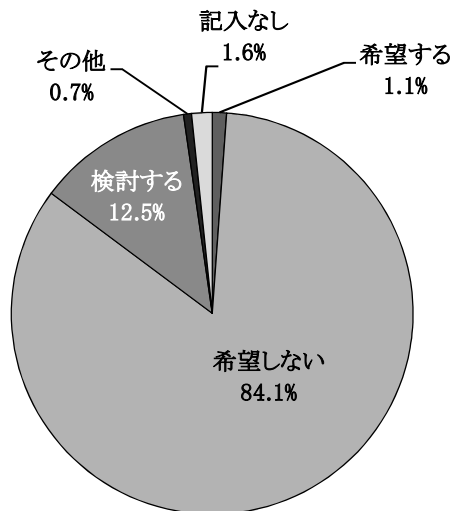
VII 北陸新幹線について

1 修学旅行専用列車が金沢まで利用可能な場合

(1) 利用を希望するか

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
希望する	3	0	2	3	6	14	1.1%
希望しない	120	141	104	366	297	1,028	84.1%
検討する	19	18	5	40	71	153	12.5%
その他	2	0	2	1	3	8	0.7%
記入なし	5	1	0	7	7	20	1.6%

・北陸新幹線利用希望
14校が希望している。検討したいと回答している学校が153校あり、そのうちの半数近くが千葉県の学校で、次に埼玉県の学校が多い。



VIII 調査結果から

1 修学旅行でのアレルギー対応について（食物アレルギー）

- ・修学旅行での食の事故防止に向けて、増加傾向にあるといわれる食物アレルギーの実態調査をすることとなった。平成19年度の調査報告書（学校給食における食物アレルギー対応に関する調査研究協力者会議資料）によると、中学校・中等教育学校においては2.6%であったが今回の調査によると、関東地区5県の中学校の平均は4.3%ということがわかり、かなりの増加傾向にあることがわかった。
- ・アレルギー症状の生徒がいると答えた学校は1,034校/1,223校で、約85%の学校でいると回答している。
- ・アレルギー対策として学校がとっている方法は「原因食物を調査して、前もってホテルなど宿泊先に連絡しておく」というのが77%の学校で実施しており最も多かった。また、「担任・養護教諭・保護者の連携を密にしている」というのが約70%の学校で行われている。

2 安全面の観点からみた旅行期間中の携帯電話等の利用について。

- ・生徒が利用しているものとして携帯電話の利用が最も多く、約45%となっている。次に多いPHSやGPSなどがあわせて約11%となっている。スマートフォンやタブレット利用も2%強となる。その他には班行動の際利用しているタクシー運転手の無線等を利用してというのもみられた。
- ・修学旅行中の事故発生時の緊急避難対策については「緊急連絡体制がとれるように工夫している」という学校が最も多く、約92%であった。そのほかには、「現地の避難場所一覧を生徒に持たせている」や「学校独自で緊急避難場所を指定している」といったものが多くみられた。AEDの設置場所をしおりに掲載したり、交番等の配置図を配布したり、非常食を持参するという学校もあった。

3 「学びの集大成を図る修学旅行」の取り組みについて

(1) 修学旅行のねらいについて、貴校では何を重視されましたか。

- ・複数回答とした。特に多い回答として
 - ①班別行動による協力性、主体性の育成（87.6%）
 - ②見聞を広め、知識の習得（84.2%）この二つが多かった。この二つに続いて、人間関係づくり（コミュニケーション能力）（68.4%）や公衆道徳の習得をはかる（62.2%）というものが多くみられた。
- ・班別行動が主流となった今、班活動を通して協力性や主体性を育てたいという学校の意図が窺える。
その一方で、県によっては「見聞を広め、知識の習得をはかる」が多いところもある。（栃木、埼玉）

(2) 生徒が修学旅行へ主体的に取り組むための方法についてお聞かせください。

- いかにより主体的に取り組ませるかについては昨年度からの課題であったが、「班別行動計画は自分たちの手で立案させる」と回答した学校が約 90%に及ぶ。

そのほかには「企画・計画の段階から生徒中心に進める」というのが約 40%回答してきた。事前学習、事前活動の段階からいかに生徒自らの手によって立案させていけるかが修学旅行中や事後活動につながっていくポイントと考えられる。

- 「学校生活の中でも意識して主体的に取り組むための工夫をする」が約 26%、<主体的な取り組みが日常的な取り組みの中で行われている>ということも非常に大切なことである。

修学旅行中だけに求めるのではなく、日頃の地道な取り組みこそ本番にも力が発揮されるものである。

企画の段階でも教師側がつい口を出してしまいがちなところをぐっとこらえて生徒の活動をじっくり見る、そして自発的な行動を期待したい。

生徒が主体的に活動するための豊富な情報源の確保、さらには活動できる時間や環境の整備も忘れてはならないところである。

(3) 現物にふれて（見て、聞いて、体験して）最も影響を受けたと思われることは何ですか。

- 「予想以上の大きさ、美しさ等、視覚・聴覚的なものから得た感動」が約 43%と最も多くの回答があった。修学旅行の醍醐味であり、実際に行った者しか味わうことのできないものである。

「教科書で学んだことを実際に見る（聞く、触れる）ことにより感動する」が約 33%と次に多い回答であった。事前に学習したことによる興味関心は感動につながり、学習の定着、深化にもつながる大切なことである。

「学びの集大成を図る」修学旅行につなげるために今一度事前学習の重要性について認識を新たにしていきたい。

- 「感性をはぐくむ、大きな感動を得る」ためには、事前にどれだけ興味関心を深められることができるかでより大きな効果をもたらす。

- 実際に体験することにより興味関心をいっそう深める、ということで学習の深化にもつながる。

「現地の方との触れあい」についても 10%近くの回答があるが、かつてはあまり見られなかった現象で、今後ますます多くなっていくのではないかと。

修学旅行を企画する上で一つの要素として考えていきたい。

(4) 被災地復興への支援（募金等）が行われていましたらお聞かせください。

- ・支援したという学校は約4%という回答を得た。

昨年は39校であったが今年度は48校での支援活動があった。現地に行き学校間の交流をしたり、講話を聞いたりしたという学校もあった。

IX まとめと今後の課題

<まとめ>

- ・本年度、関東地区公立中学校修学旅行委員会では「感性をはぐくむ修学旅行」をテーマとし、調査研究を実施してきた。

昨年度のアンケートから「生徒の主体性をいかにはぐくむか」という課題が出ていたのを受け、主体的に取り組むための各学校における手だてについて調査したところ圧倒的に多かったのが「班別行動計画を自分たちの手で立案させる」という回答であった。計画の段階からいかに生徒の手によって作られるかというのは、実際の場において取り組み方にも大きな違いがあるのではと考えられる。

感性をはぐくむためのものとして生徒に大きな影響を与えたことは「自分の想像を超えた大きさや美しさ等、視覚や聴覚などから得たもの」が最も多い回答を得た。

また、「事前に学んだことを実際に見て触れて感動を得る」という回答も多く、事前学習の重要性もはっきりしている。

今回、真岡市立中村中学校の塚原校長先生からは「クリーン修学旅行」と題し、昭和47年に始まった情操教育の推進を目指した旅行先での清掃活動などが紹介される。体験活動を通じた経験が生徒の教育に大きな影響を与えている実践例の発表である。

また、佐野市立葛生中学校の石原先生からは「心に響く修学旅行をめざして」と題し、広島で命の尊さや平和について考える修学旅行の実践例の発表である。

これらの2つの実践例と調査研究されたアンケートは、今後の各学校の「修学旅行」の方向性を考える参考にしていただき、一層充実した修学旅行が展開されるようになればと考えている。

<課題>

(1) 修学旅行のねらいについては各学校で充分検討されてきているが、その効果となると、なかなか思うように結果が得られない。

「ねらいや目標」について、生徒がどのように理解できているのかが大変重要なところである。事前学習や事後学習への主体的な取り組みに影響するものと考えられる。総合的な学習の時間での取り組みの減少が、修学旅行の活動意欲の減少にならないよう留意したいところである。

(2) 「事前・事後学習」の重要性は理解しているが教育課程上、なかなか解決していくのが難しい現状がある。教科の中で横断的な学習が計画できないか。

(3) 今回の調査から修学旅行の実施に向けて生徒の取り組み方は「班活動を中心として」が主流であることが分かる。かつてより一層強まったが、それに見合う情報の提供、機器の整備など大切である。

(4) 修学旅行を単に3学年だけのものと考えないで、1学年の段階から系統性を持たせた活動の集大成の場と考えられるよう取り組み方への工夫が大切である。

修学旅行に向けての事前学習時間の減少に伴って、生徒がより充実した計画や企画立案が困難になってきている。事前指導の不足や、班別学習のあり方等が課題としてあげられることが多いが、生徒の主体性をはぐくむためにも学校としても一考を要するところである。